

大阪市内ベイエリアの将来的なあり方に関する懇談会

(第2回)

2026年1月21日

夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0(案)の作成に向けて

—検討状況—

2026年1月21日

大阪府・大阪市

夢洲のまちづくりの経緯①

夢洲まちづくり構想（平成29年8月）

府市・経済界と共同により、夢洲地区での観光拠点の形成など新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくりや土地利用等に関する方針としてとりまとめ

夢洲まちづくり構想

Smart Resort City

夢と創造に出会える未来都市

拠点形成のための都市機能

大阪、関西、日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成

スーパーメガリージョンの形成

大阪、関西の活力と広域的相乗効果を生み出すネットワーク

新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級のMICE拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信

健康で生き活きたした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

出典：夢洲まちづくり構想

JAPAN ENTERTAINMENT

▶ 大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成

BUSINESS MODEL SHOWCASE

▶ 新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級のMICE拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信

ACTIVE LIFE CREATION

▶ 健康で生き活きたした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

まちづくりの方針

土地利用：世界で存在感を発揮するまちづくり

都市基盤：確かな技術に支えられたスマートなまちづくり

環境共生：地球・自然環境共生とスマート技術の融合による先進的で快適な環境形成

空間デザイン：アーティスティックなデザイン、上質で快適な空間構成

夢洲のまちづくりの経緯②

夢洲まちづくり基本方針（令和元年12月）

「IR整備法」の成立や夢洲での万博開催決定等を踏まえて、府市・経済界と共同により、国際観光拠点の形成に向けた具体的なまちづくりの方針としてとりまとめ

夢洲まちづくり基本方針

SMART RESORT CITY の方向性

- ・夢洲では、「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取組によって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図る。
- ・夢洲で万博が開催されることを踏まえ、その意義や理念を活かしたまちづくりをめざす。

土地利用の方針

第1期区域 統合型リゾート(IR)を中心としたまちづくり

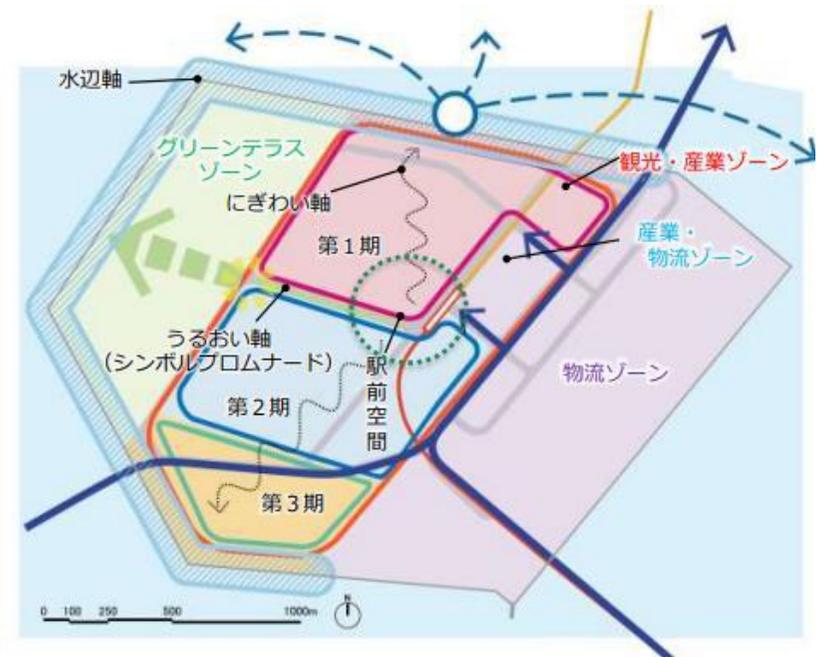
- ・夢洲に行くことでしか体験し得ない多様なエンターテインメント機能の集積
- ・関西・日本が育んできた和の文化・芸能等に国内外からの来訪者が触れることができる施設やコンテンツ・サービスを導入
- ・競争力の高い大規模展示場や会議場などを整備し、都市力向上や産業振興に資する大規模展示会や国際会議等への対応力を強化

第2期区域 万博の理念を継承したまちづくり

- ・国際観光拠点にふさわしい大規模で、統一されたコンセプトに基づくエンターテインメント機能やレクリエーション機能の導入を図ることで国際観光拠点の強化及び更なる集客
- ・第1期の導入機能との連続性を確保するとともに、大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケースや最先端技術の実践・実証の取組や、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用した様々なプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築など、万博理念を継承する取組を展開
- ・整備にあたっては、万博計画と跡地計画の整合を図り、相互に効率的な整備

第3期区域 第1・2期の取組を活かした長期滞在型のまちづくり

- ・海に隣接した立地特性を活かすとともに、第1・2期において導入された来訪者の利便性の向上に資する最先端技術等を取り入れた施設やサービスにより、生活の質(QOL)を高め、非日常空間を感じ、ゆとりある滞在時間を過ごせる上質なリゾート空間を創出



出典：夢洲まちづくり基本方針

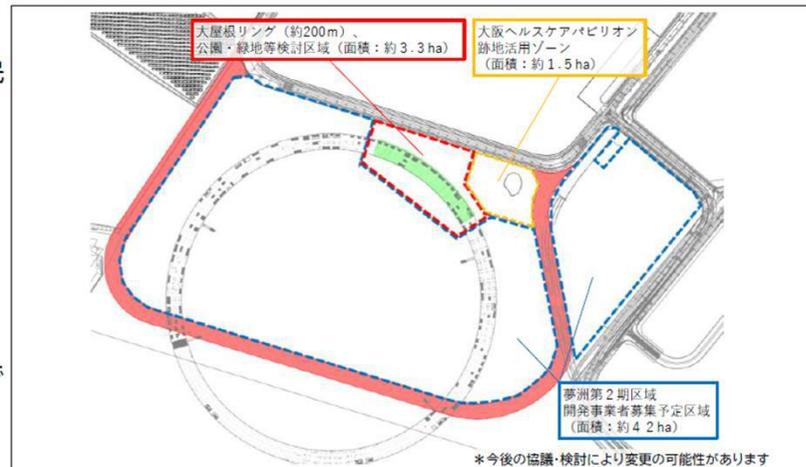
6. 万博レガシーの継承

(2) ハードレガシー

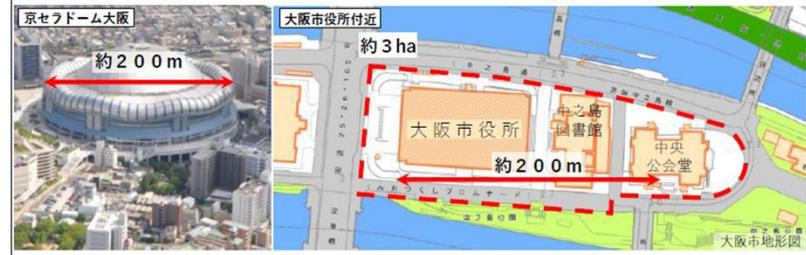
① 大屋根リングの利活用

- 大屋根リングは「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表す会場のシンボルとなる建築物である。
- 「夢洲第2期区域マスタープランVer.2.0（案）」について、府民や市民からの意見募集（パブリックコメント）を令和7年6月6日から同年7月7日まで実施したところ、大屋根リングに関する意見が大半となり、さらに、大屋根リングの取扱いについては「原型に近い形で残置すべき」との意見を多数いただいた。
- 大屋根リングについては、大阪・関西万博会場建設費を負担した、国・経済界・府市と、大屋根リングの所有者である2025年日本国際博覧会協会が構成する「大屋根リングの活用に関する検討会」において、パブリックコメントでの大屋根リングの残置に関する意見も確認しながら、議論を重ねた結果、同検討会の総意として、万博のレガシーをわかりやすく残すという観点から、第2期区域の北東部約200mを原型に近い形で残置することが望ましいとの結論を得た。
- 今後、2025年日本国際博覧会協会が提供する大屋根リングの部材の状態に関するデータを大阪府が確認することを前提に、大屋根リングとその周辺エリアについては、大阪府・大阪市において万博を記念する公園・緑地等として整備、維持管理することを検討し、議会の議論を経て決定する。
- また、残置する大屋根リングとその周辺エリアの整備・維持管理に要する財源については、大阪・関西万博の会場運営費の剰余金が発生する場合には、その活用を検討するとともに、国の協力を得て地方創生交付金等の国の交付金や補助金の活用を検討、大阪府・大阪市の負担の検討、協力いただく個別企業を探するなど、関係者が真摯に検討し、確保することとしている。

大屋根リングの利活用イメージ



【参考】整備規模のイメージ（大屋根リング、公園・緑地等）



【大屋根リングの概要】

- 日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な貫（ぬき）接合に、現代の工法を加えて建築
- 会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用
- ・ 建築面積 約60,000㎡（水平投影面積）
- ・ 長さ 約2,200m（内径：約615m、外径：約675m）
- ・ 幅 約30m・高さ12m（外側20m）

提供：2025年日本国際博覧会協会



夢洲第2期区域マスタープラン について

夢洲まちづくり構想 【平成29(2017)年 策定】

夢洲まちづくり基本方針【令和元(2019)年 策定】

【2022】 夢洲第2期区域（大阪・関西万博跡地）に係るマーケット・サウンディングの実施

【2024. 9】 夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集の実施
【2025. 1】 2件の優秀提案の決定

【2025. 4】 「夢洲第2期区域マスタープランVer.1.0」の策定

【2025. 5~9】 「大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会」

【2025. 10】 「夢洲第2期区域マスタープランVer.2.0」の策定

【2025. 12~】 「2025年日本国際博覧会 成果検証委員会」

優秀提案の内容や記念公園の整備など万博レガシーの検討状況を参考にマスタープランをとりまとめ

【2026年春頃】 「夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0」の策定

夢洲第2期区域 開発事業者募集の開始

優秀提案者ヒアリング

夢洲における万博レガシー継承と発信について(案)

(1) 夢洲での取組

【基本的な考え方】

- ・大阪・関西万博では、世界中の国々から多くの人が集い、多様な文化・価値観が交流することによって新たな価値観が共有されるとともに、次世代技術・システム等の実証により様々な社会課題への解決が図られた。
- ・開催地である夢洲が、万博で紹介された理念や技術、万博で生まれた様々な交流が大きく花開く場として発展することにより、万博レガシーを分かりやすく体感できることに繋げ、「いのち輝く未来社会」の実現に向けて先導的な役割を果たしていくこととしたい。
- ・MICE機能などを有する第1期区域(IR区域)、第2期区域、第3期区域(将来)が連携し、夢洲全体で万博の記録や成果を日本・世界へ発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能の導入をめざす。

【大阪・関西万博の成果】

- ・世界各地からの参加者と出展者が、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、大阪・関西万博に結集して184日間の登録博を開催し、世界中から2,900万人を超える来場者を迎え入れた。
- ・「①つながり・交流の拡大、深化」、「②新たな価値観への気づき・共有」、「③新たな取組として生み出した技術・システムの実証」など様々な成果を「大阪・関西万博宣言」としてとりまとめ。

《夢洲における万博レガシー継承と発信の取組概要》

【1期】 IR

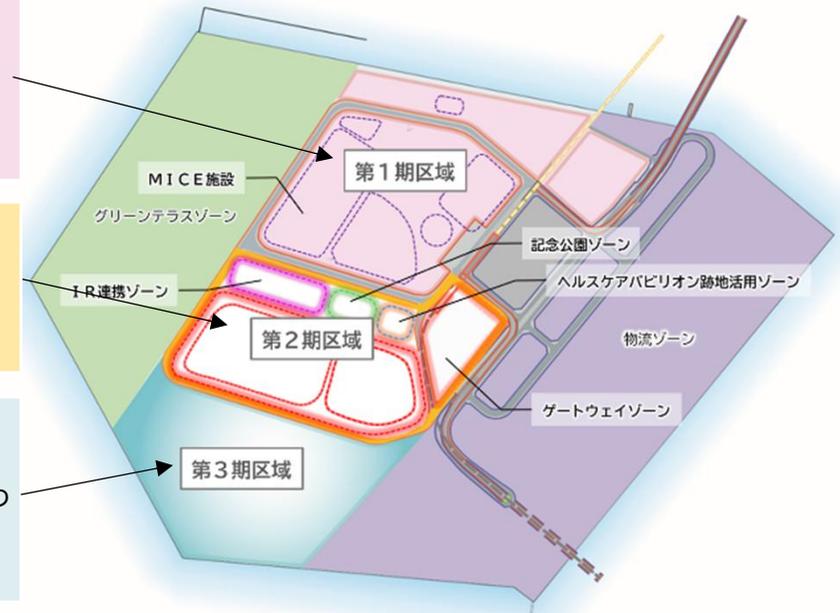
- 新たなMICEイベントやコンテンツの創出等により、国際競争力のある地元産業の振興に貢献する

【2期】 万博跡地

- 万博の理念継承し国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくり

【3期】 将来

- 第1・2期で創出された最先端技術等により、健康や長寿につながる長期滞在型の上質なリゾート空間を形成



夢洲における万博レガシー継承と発信について(案)

(2) 夢洲第2期区域での取組

- ・第2期区域では、万博の成果である「つながり・交流の拡大、深化」、「新たな価値観への気づき・共有」、「新たな取り組みとして生み出した技術・システムの実証」などを継承し、音楽、アートやスポーツなどを題材に、国内外の若者の夢や心身を育み、多くの人に開かれ、環境に配慮し、さらに数多くの先進的技術に触れ、これらを日本・世界へ発信するエリアをめざす。
- ・これに向け、公共が記念公園ゾーンにおいて、大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを万博のレガシーを継承する記念公園として整備するとともに、万博の記憶を後世につなげる情報発信・交流のための記念館を設置する。
- ・さらには、民間事業者の募集要項において、『万博で実証された産業(健康や医療産業等)や研究機関の研究成果等に来訪者が気軽に接することができるショーケース機能を導入する等、「未来社会」の実現に資するまちづくりを展開する』旨を記載することにより、その実現をめざす。
- ・大阪ヘルスケアパビリオン跡地ゾーンにおいて、民間事業者が、万博で取り組んだ先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る事業を実施するとともに、これらに係る情報発信に取り組む。

府・市

記念公園ゾーン

<記念公園>

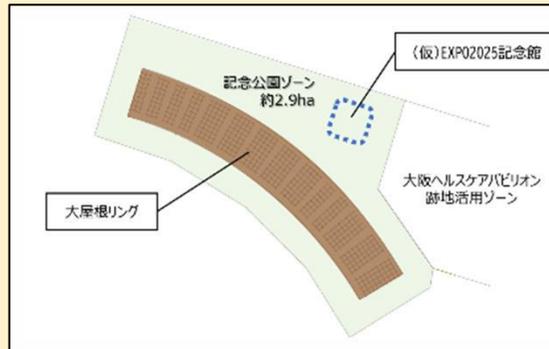
- 大屋根リングの一部を含む周辺エリアを、万博レガシーを継承する記念公園として大阪府が整備・管理して、万博で実現したリングを背景とした交流や出会いの「場」を持続的に再現

<大屋根リング>

- 「大屋根リングの活用に関する検討会」での総意を踏まえ、リングの北東部約200mを残置し、大阪府が上に登れる公園施設(展望台)として管理

<(仮)EXPO2025記念館>

- 万博の記憶を後世につなげる情報発信や交流促進のための記念館を、公園施設として、大阪府が新設して運営
- 記念館の設置にかかる財源は、関係者で真摯に検討し確保



開発事業者

<静けさの森の樹木>

- 静けさの森の樹木を利活用した、まちづくりと一体となった緑地等の整備

大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーン

<大阪ヘルスケアパビリオン>

- 先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能を導入し、これらに係る情報発信を行う

ゲートウェイゾーン

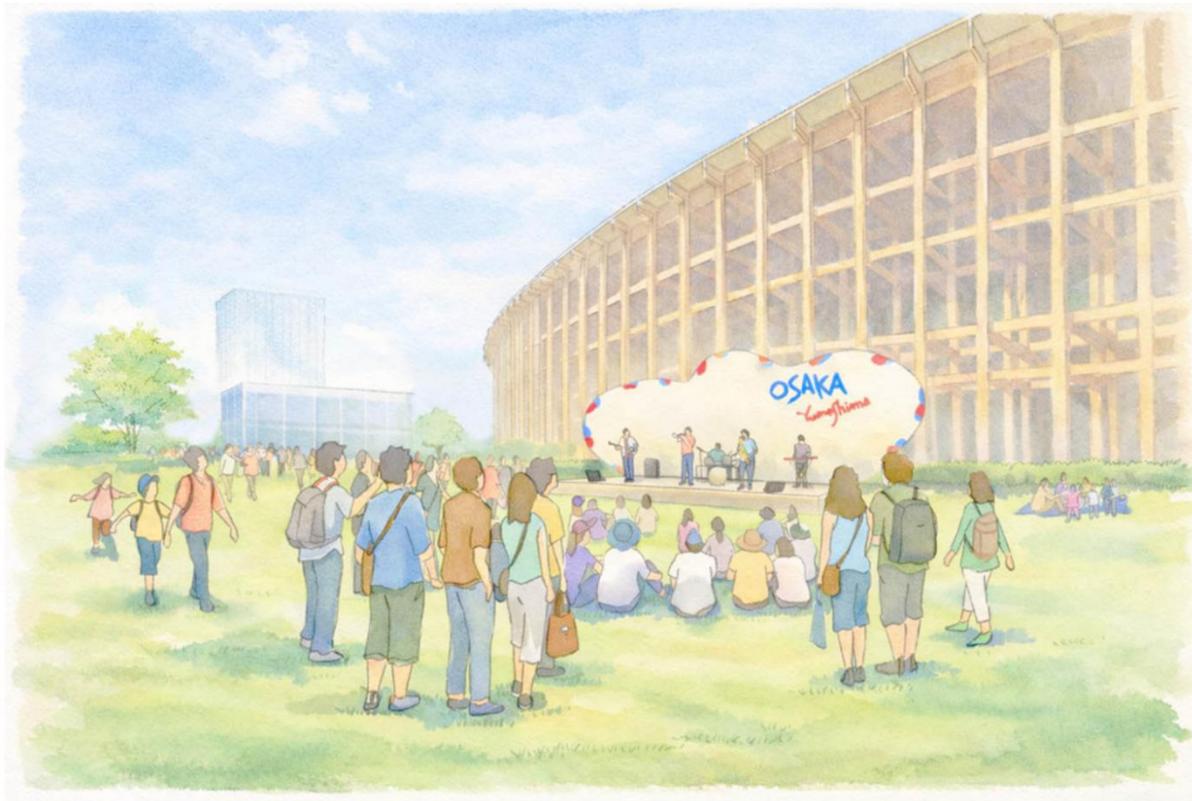
- 大阪が強みを持つ産業・研究の拠点機能や展示機能、万博を契機に創出される最先端技術やイノベーションに触れられる機能等の導入

・ 関係者の協力による財源確保を前提に、記念館の設置について合意

・ 記念公園ゾーンの整備について、剰余金の活用も視野に「第2回 成果検証委員会」で府市が提案

夢洲における万博レガシー継承と発信について(案)

(参考) 記念公園イメージパース



(参考) 記念館内部イメージパース



※本パースは、大阪市内の将来的なあり方に関する懇談会(令和7年1月21日)から、副首都推進本部会議(令和8年2月12日)資料に更新したもの